式先生との思い出

武田むつみ

真暗闇とブリザードのエルズミア島最北端アラート付近で，近くの基地へ物資輸送中の軍用機が墜落，というニュースを聞きながらこの小稿を書き始めました。“エルズミア島”ときくと真先に先生のお顔が思い浮かびます。あれは1972年の夏，在外研究でモントリオールに滞在中だった先生は，国際地理学会の巡検でエルズミア島を訪ねられました。御出発前，エルズミア島まで行ってみたいけれど、宿泊施設などどうだろうと心配顔の先生に，こんな機会でなければ絶対見られない所だからぜひお出かけになって下さいと鈴木陽子さんと２人でお願いしたことが，なつかしく思い出されます。結局先生はエルズミアの旅を楽しまれ，御帰国後，私たちは数多くの珍しいみやげ話を伺うことができました。島で拾われたトナカイ（？）の角がずっと研究室の一隅に置かれていましたが，まだ健在でしょうか。

先生とは本当によく地理の話，個人的な話，世間話等をさせていただいていますが，その始まりは私が学部３年の時のことと記憶しています。その夏私が巡検委員で佐渡巡検が実施されました。20年以上前の佐渡はまだ交通不便で旅館も少なく東京駅の出張所等に通って計画を作りましたが，どうした経緯か参加者が少なく，先生も含め，３，４年，院生あわせて確か７人の小部隊でした。しかし，地元の方の応援もあって巡検は大成功。この時佐渡で見た海岸段丘の見事さに，私は初めて自然のすばらしさ，おもしろさを発見することができました。

この後先生の調査旅行へのお伴が始まりました。同じ夏の上高地の防災調査，翌春，開通したばかりの川崎―日向フェリーで出かけた中津，志布志湾の地盤調査等々，自然の調査もなかなか忍耐と根気がいるものと思いましたが，同時に得られた資料をもとに推測をめぐらし，検討する楽しみを覚えました。先生は「ぼくは聞き込みが嫌いだったので自然を相手にするようになった」とよくおっしゃいましたが，聞き込みというだけで尻込みしてしまう私からみると，実に楽しげに人とのお話もこなされていました。疑問点は絶対にあやふやにせず，徹底的に追求する姿勢をこれらの調査旅行のお伴から学びました。

卒論は初めての一人立ちの機会で，私は迷わず自然のなかにとび出しました。調査も論文作りも楽しくてしようがなく，原稿がどんどん長くなってしまう私を見て，先生は「アコーディオンも引っ張り放しではよい音が出ない。上手に圧縮しなくてはね」といわれました。これは今でも物を書く折にいつも思い出す貴重な御助言です。

卒業後もしばらく隣室でお手伝いさせていただきましたが，最も印象に残っているのは２年間続いた「地学雑誌」の編集でしょう。編集長の先生にまるで編集経験ゼロの私が助手で，２カ月に１冊ずつ雑誌を発行していくのは，やりがいがあるとはいえかなりの大事業でした。原稿（地理のほか地質，古生物関連等も）を読んで整理し，割り付けをして入稿，そして校正，と書くと簡単そうですが，なかには不備な原稿，面倒な図があったり，途中でいろいろなミスが出たり……，そして最後に出張校正，この時には先生みずから必ず私と印刷所に一日詰め，納得のいくまで直しを御覧になりました。どんな小さな点もないがしろにしない粘り強い先生に感銘を受けたものでした。おかげで先生が責任を持たれた２年間の雑誌は評判が良かったとか……。

最後にもう一つ，先生のやさしい御家族思いの一面も忘れることができません。御旅行先からは必ずお宅にお電話なさいましたし，何事もなるべく御家族御一緒にと心がけられていたように思います。地理学者は自分の殻にこもって研究ばかりしているのではなく，一般の人々に啓蒙活動をしなければいけないといつもおっしゃっていた先生。世界情勢が驚くべき速さで刻々と変化し，地球の環境に皆が敏感になっているこんな時代にこそこ

の使命は重大で，これからの先生の御活躍に期待するところが大きいと思われます。どうぞお元気で，よりたくさんの人々に地理の重要性，おもしろさを伝えていっていただきたいと願っています。

（20回生）

「式」　次　第

小　玉　美意子

一　開会の辞――真面目な教え子

ただ今から，お茶の水女子大学・式正英教授の退官記念会を開催致します。

二　挨拶――優等生の教え子

この度，敬愛してやまない式正英先生が定年退官なさると伺い，まことに感慨無量でございます。私どもが在学していた頃，先生は三十代の働き盛り，さっそうとしておられました。ご専門の分野で次々とご業績をあげられる一方，学生の面倒を大変よくみて下さいました。そうした先生に励まされ，私も今日まで仕事を続けて来ることができました。本当に先生に教えて頂いて良かったと，感謝致しております。式先生，これからも益々お元気でご活躍下さいませ。

三　乾杯――呑ん兵衛の教え子

私は当時からお酒が嫌いではなかったのですが，社会が女性の飲酒に好意的でなかったので，控えていました。学生時代に先生とじっくり飲んでみたかったです。でも人生は長く，酒はうまい。今からでも遅くない。先生，よろしくお願いします。では，皆さん。式先生の研究者・教育者としての立派なご業績，そして，これからの益々のご発展・ご健康を祈念して，乾杯を致しましょう。乾杯！

四　歓談――無責任な教え子たち

私さァ，式先生って云うと，奥様のことが印象に残っているわ。地理科の卒業生で，とてもすてきな方だったじゃない。親しみがわいたわ□そういえば，渡辺光先生が，会食の時，ずいぶんからかっていたでしょう。この人は国土地理院で隣にいた人をかっさらって来たって□えっ，そう？私はあの真面目な松井先生が「熊本平野はロマンス平野です，ホホホ」とおっしゃっていたので，巡検が縁かと思っていたけど□二年の時，式先生が担任だったのでお宅に伺ったことがあるのよ。とても子煩悩で優しかったわよ。その時小学生だったお子さんももう立派に成長されて。

英語の原書購読の授業で，私，予習して来なかったので読み間違えて，ドイツ語風に発音しちゃったら，あなたはドイツ語が良くできますねって，見逃して下さった□地図学演習の時，航空写真を立体的に見る方法を教わったでしょう。あれ以来暇な時に天井の模様なんかで試してみると，天井が高く見えて面白いのよ□巡検では先生は歩くのも自転車に乗るのも早くてさぁ，やっぱり先生っていうのは何につけても違うんだと実感したわ□卒論指導では思い出がある。私，常識がなかったから，先生に泊まって頂く旅館を取るのに，親にも相談しないで変な汚いところにしてしまったのよ。でも，先生は何もおっしゃらずに黙って受け入れて下さった。今でも気にしているの□卒業後，地名で分からないことがあって訪ねて行ったことがある。そうしたらいろいろ資料を出して調べて下さったの。有難いと思ったわ。……。

五　中締の挨拶――改心した教え子

私は大学生の時，大学の先生をそれほど偉いと思っていませんでした。特に男性の場合，実業家とか政治家とかもっと男らしい仕事もあると思ったのです。でも，自分が高校教師になり，日夜地理学と取り組んでいると，分かっていないことがたくさんあるのに気づきました。そこで初めて，こういう未知の部分に知的に挑戦することの大変さと素晴らしさに気づいたのです。残念ながら高